

第94回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成22年12月10日(金) 10:23 ~ 10:52

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	菅 直人	内閣総理大臣
議員	仙谷 由人	内閣官房長官
同	海江田万里	科学技術政策担当大臣
同	片山 善博	総務大臣
同	野田 佳彦	財務大臣
同	高木 義明	文部科学大臣(代理 笹木 竜三 副大臣)
同	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長)
同	白石 隆	常勤(元政策研究大学院大学教授・副学長)
同	今榮東洋子	非常勤(名古屋大学名誉教授)
同	青木 玲子	非常勤(一橋大学経済研究所教授)
同	金澤 一郎	非常勤(日本学術会議会長)
臨時議員	鹿野 道彦	農林水産大臣(代理 篠原 孝 副大臣)
同	玄葉光一郎	国家戦略担当大臣

(議題)

1. 開会

2. 議事

(1) 平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて(決定・意見具申)

(2) 第4期科学技術基本計画策定に向けた検討状況について(報告)

(3) その他

3. 配布資料

- 資料 1 - 1 平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて（案）の概要
- 資料 1 - 2 平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて（案）
- 資料 2 - 1 第4期科学技術基本計画策定について
- 資料 2 - 2 科学技術に関する基本政策について（答申原案）（第11回基本政策専門調査会配布版）
- 資料 3 第93回総合科学技術会議議事録（案）

「平成23年度科学・技術関係予算の編成に向けて」について原案どおり決定し、総合科学技術会議から内閣総理大臣及び関係大臣に対し意見具申することとした。「第4期科学技術基本計画策定について」について報告の後、意見交換された。

議題（1）、（2）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【笹木文部科学副大臣】

平成23年度の予算編成は第4期の科学技術基本計画の初年度の予算であり、今お話があったとおり、質の高い科学・技術関係予算編成をすることは本当に大事だと思っている。文部科学省としては、「元気な日本復活特別枠」で若手研究の人材育成、2大イノベーション、宇宙、原子力の世界展開、こういう様なものでしっかりやっていこうと思っており、併せて研究者にとってパフォーマンスがいい予算の使い方ができるような基金化も含めて、一生懸命働きかけをやっている。こうしたことに取り組んでいることも御報告させて頂いた。

【菅議長（内閣総理大臣）】

今の基金化についてももし御意見があったら、聞かせて頂きたい。効果的だとか、いやいや、現場的にはどうかという。

【本席議員】

研究費の基金化というのは、実は最初に出されたのは、前政権の末期の補正予算でついた先端的な大型予算であり、これに関して当時の科学技術政策担当大臣でいらっしゃった菅総理が基金化という方向で全体を整理して頂いた。このことはやはり研究者にとっては非常に大きなプラスであると。多くの方がこれを書いており、また、本年度のいわゆるパブコメにおいても、

科研費の一部だが、文科省から出されている基金化に圧倒的な支持が出ているので、これはぜひ政府として長期的な方向としてお考え頂きたい。

【青木議員】

今回、この予算を評するに当たってぜひ総理にお願いしたい、これは国民全員のための科学・技術関係予算であると。特に、女性と若者を新政権設立の時代に強調されたと思うが、それをぜひ確認して頂きたい。歴史的に見ると、日本が急成長を成し遂げた明治時代とか昭和というのは、絹を支えたのも女性、トランジスタラジオを組み立てたのも女性という具合に、女性の家庭外の労働というのは非常に重要なものだと思う。この日本が試練を迎えている時代にまた日本の急成長を支えるのは、女性の家庭外の労働ではないかと思う。

それから、新政権が出来た頃に数学の社会連携のシンポジウムに行ったときに、院生が手を挙げて、本当に我々の時代になったと、これから数学者として何をしたいか知りたいと発言したのを覚えている。そういう若者にも応えるような予算であるということをぜひ強調して頂きたい。よろしく願います。

【本庶議員】

民主党政権が発足して1年3カ月である。菅総理は、当初、科学技術政策担当大臣として科学・技術を推進するということを表明して頂いた。さらに、民主党の成長戦略の中にも、科学・技術はプラットフォームとして強かに位置づけられている。しかしながら、今日まで国民に具体的にポジティブなメッセージとしてまだ示されていない。昨年の仕分けは明らかに逆向きのメッセージであった。菅総理としては、この時期にぜひとも具体的に科学・技術を推進するという決意を少なくとも次の2点については明確にして頂きたい。

第1は、総合科学技術会議の改組の件である。改組と言われて久しく、しかしながら日程も内容も示されずに放置されている。加えて、科学技術振興調整費という要の財源が最近の仕分けでは全廃という結論が出るなど、総合科学技術会議の弱体化につながる動きが出ている。ぜひ、司令塔機能としての総合科学技術会議の強化という具体的な中身と日程を明示して頂きたい。

第2点は、ただいま相澤議員から説明があった第4期における政府研究開発投資目標、GDP比1%、もし、これが入らないとすると、自民政権よりも民主党政権は科学・技術軽視であるという誤ったメッセージを世界中に発信することになるということを危惧する。ここはぜひ

ひ総理の決断を切にお願いする次第である。

【奥村議員】

今回の基本計画、先ほど概要御説明があったが、一言で言えば、やはり新成長戦略実現のための政策であるということである。これをこれまでの3期計画までと比べると何が違うかというと、イノベーション創出が明確に入っているということである。そのためにはやはり投資の目標を明示する、具体的には対GDP比1%あるいは約25兆円ということは不可欠だろうと私も考える。この投資をいかに有効に使うかという点に関して2点申し上げたい。

1点目は、ただいま政府のほうで検討されていると思うが、科学技術イノベーション本部の創設、総合科学技術会議の改組であり、そこにきちっとPDCAサイクルを回す機能を新組織に具備するということが極めて大事である。先ほど総理のほうから研究資金の基金化の話があり、私も基本的には基金化したほうがいいと思う。そのときの条件としても、やはり研究の質を担保するためにはPDCAサイクルを回すということが同時にないといけない話であり、新たな組織にはぜひともこのPDCAサイクルを回す機能を担保して頂きたい。それが投資効果を上げる上で根源的、一番有効な点だろうと思っている。

もう一点は、イノベーション創出を担う人材についてです。もちろん、アカデミアの方がおりますが、イノベーション創出は最終的には民間が担うものである。したがって、民間で働く若手、彼らをグローバルレベルに教育をしないといけない。御案内のように、最近、日本企業はいわゆるグローバル採用と称して日本以外から優秀な学生を採用している。こういうことが続くと、新成長戦略に記載されている博士の完全雇用、これは極めて難しい状態になるということを私は危惧している。したがって、イノベーション政策としては、研究開発、プラス高等教育にも投資をすると、重点投資対象にするということが極めて重要だろうと思う。

【白石議員】

この1年、東アジアでは非常に大きな変化が起こっている。それを一言で言うと、東アジアからアジア太平洋の時代に振り子がもう一遍振り戻しているということだろうと思うが、常々、私はこのアジアの韓国であるとかあるいは東南アジアの国々を訪れるたびに痛感することは、その中で日本に対する期待が実は高まっているということである。やはりこの地域の安定と繁栄を維持するためには、日本が頑張ってもらいたい。日本と一緒に連携してやりたいという意識が非常にはっきり出てきている。その中で、やはり日本がこれから科学・技術、イノベーショ

ンの国として先頭に立っていくんだと。そのためには、やはりそこに重点投資するし、そのためのもっと強力な権限を持った戦略本部を作るんだと、そういう意思をぜひ一刻も早く総理から出して頂きたいと思う。

【野田財務大臣】

科学・技術の重要性については、これはもう言うまでもないことだと思うし、これまでも政府としてはそういう配慮をしてきたつもりで、先般成立した補正予算でも科学・技術関連費で1,700億円余りある。この姿勢は変わらないということであるが、今後重要となるのは、さっきP D C Aのお話もあったが、単なる投資というインプットだけではなくて、何を、いつまで、いかに効率的に実施したかというアウトプットを検証する、この視点はぜひ欠かせないでいかなければいけないと思う。

あとは、この2ページ目の研究開発投資の問題だが、確かに新成長戦略で官民挙げて対G D P比4%以上、これはやはり全力で取り組むという認識は持たなければいけないと思う。ただし、その上で、やはり厳しい財政状況の中で、財政運営戦略というのは、これは科学・技術だけではなくて、あらゆる分野がこの制約の中でこれからのあり方を検討すると。そこはぜひテイクノートして頂かなければいけないということで、この厳しい経済と財政状況の中で対G D P比1%と明記することについては、具体的な規模を出すことについては、私は躊躇せざるを得ないところがある。ただし、それが外へのメッセージを含めて高い志を示さなければいけないということならば、それはちょっと書きぶりを工夫するような詰めをさせて頂ければなと思っているので、今申し上げたような色々な視点を含みながらの書きぶりを工夫することを引き続きやらせて頂ければと思う。

【笹木文部科学副大臣】

財務大臣のおっしゃることは、財務の責任者としてはよくわかるが、しかし本当に今、私にとっても耳の痛い御発言を頂いた。率直なところだが、政権交代して、いろいろ外への伝え方は工夫している。しかし、補正と本予算の実態を見て頂ければ、今言われたように、政権交代して科学・技術関係予算がむしろ停滞どころか、と言われかねない状況になっている。これは間違いなことなので、ぜひそこは精査をして頂いて、必ずこの政府研究開発投資対GDP比1%、5年間で25兆円の投資目標を書き込みたい。もちろん、P D C Aも、効率化というのは必要だが、このメッセージは外に発しないと、言われているとおりに、懸念どおりになる可

能性が高いということである。

あと、科学技術外交、これも東アジア共同体を言うなら、政治的に難しいところに対してソフトパワーで科学・技術で外交に入っていくと。その中で日本だけが力を入れていないということで、どう入っていけるのかと。本当にやっていけるのか。そのぐらい危機的な状況だと私は思っているので、ぜひお願いをしたいと思う。

【玄葉国家戦略担当大臣】

全くある意味次元が違うことをあえて申し上げたいのだが、科学・技術の重要性と必要性については先生方と全く同じ思いである。一方で、昨日、ある大学の前の総長がいらっしゃったときにも申し上げたが、医療分野でも、医師不足始めさまざまな歳出増が必要だというのは、これまた同じようにわかる。そのときに、やはり、先生方のようないわゆる誰からも立派だと言われる方から、これからは財源のことも併せてご意見をいただくということが必要ではないか。私は別に財務大臣の立場に立って言うわけではないが、やはり社会保障、自然増がどんどん増えていく。そういう中で、それぞれ非常に理のある主張がそれぞれの立場からなされる。今、私も23年度予算編成過程で予算と税に関係しているが、やはり税制の抜本改革はやらなければいけないということを同時に世の中に向けて言っていないと考えている。率直に言って、先生方のご意見は全くそのとおりだなと思いながら、一方で説得力を感じないというのは、やはりそれを実は感じている人が多いのではないかと思うからである。本当に生意気だが、これはやはり一緒になって日本の社会を遠望し、しっかりと将来を見つめて、そのことも含めて先生方のような方々に言っていただくということが私は大切なことだと思うので、一言付言させていただきます。

【本席議員】

簡単に申し上げるが、私は財源論を抜きにこれはできないと思う。ただ、我が国の財政を圧迫しているのは、社会保障の自然増を認めると、こういうことを最初に言われたことである。これは言うべきでなかったと私ははっきり申し上げる。社会保障は、膨大なお金を使っているが、皆満足してない。いかにして患者もハッピーになり、医師もハッピーになり、保険者もハッピーになるのか、その明確な妥協点をもっと国民全体で議論して出していかなければいけない。今は明らかに無駄な、医療費に関しても様々な過剰なものが入っている。あの自然増を認めるということは、私は率直に申し上げて本予算編成における最大の失敗であったと。

【海江田科学技術政策担当大臣】

予算はまだ編成過程であるので。

かなり率直な意見がそれぞれ交わされたと思うが、皆様いかがか。

【青木議員】

今、本席議員が社会保障費のことをおっしゃったのでまた指摘させて頂くと、平成20年の社会保障費は99兆円で、年金が49兆円だった。それで、第4期には5年間で25兆円を使うコミットメントを提案しているのは、特に若者と、あとさっき白石先生の指摘のあった国外へのメッセージという意味でも、非常に意義があるのではないかと思う。

【海江田科学技術政策担当大臣】

今、本当に双方から率直な意見が交わされたと思う。こうした率直な意見を踏まえつつ、これから年末の答申にむけ、議員の先生方にはさらなるご尽力をお願いする次第だが、どうぞ年末の答申、立派なものができるようお願いを申し上げるとともに、また議論をさらに深めていきたい。

お手元に前回の議事録を資料として配付している。

ただいまから菅総理からの発言をいただくが、その前にプレスを入れるので、しばしお待ち頂きたい。

(報道関係者入室)

【海江田科学技術政策担当大臣】

それでは、最後に菅総理から御発言頂きたい。

【菅議長(内閣総理大臣)】

私も最近、常に2つのことを考えている。1つは、やはり財政を含めて日本全体をどうやっていこうかということと、もう一つは、自分がやりたいことをもっとやっってしまうかということと、そんなことを常に2つ考えている。

昨日も「はやぶさ」の責任者であった川口さんにおいで頂いて、あのすばらしい成果を色々

と説明頂いた。また、毛利さんともちょっと電話で話をして、素材の話を色々とした。そういった意味では、日本が世界に向かってまさに成長し、元気を取り戻していくには、科学・技術の分野だと、そのように思っている。

先ほど白石議員からも、日本に対する期待感は最近逆に高まっているという御指摘があったが、私もそう感じている。先日もボリビアの大統領、いわゆる先住民出身の大統領だが、あそこは世界のリチウムの半分ぐらいが埋蔵されているが、どの国ともまだ契約は一切結んでいない。つまり、歴史的に自分たちはどんどん搾取されてきたと。自分たちはそのリチウムを付加価値をつけて世界に提供したいんだということを言われたので、「それじゃ早速、日本にはリチウム電池の有力なメーカーがたくさんあるわけですから、そういう皆さんを連れてミッションを出しましょうか」と言ったら、「ぜひ来てくれ」と。「菅さん、あなたにはアドバイザーになってくれ」とまで言われて、大変嬉しかった。やはり多くの国が日本のような国になりたいということを強く思っておられることを最近ひしひしと感じている。

そういった意味で、多少これからは私もわがままを言わせてもらって、好きなところにはたくさん予算をつけようと、簡単に言えば、こういうように考えることにした。そういった中で、今日はこの科学・技術関係予算全体については、民間と官民合わせてGDP比4%、さらに政府としては1%という要請を皆さんから強く頂いているが、そういったことも念頭に置いて、しっかりと最終的な取りまとめをお願いしたい。

また、この総合科学技術会議のもっと戦略的な位置づけについて、これは余り愚痴を私のような立場で言うのは適切ではないかもしれないが、今、内閣の制度の中で、例えば私が本部長、議長をやっているのが20ぐらいある。そして、この部分は海江田大臣、この部分は何とか大臣となっていて、かつての行政改革という名の中で大臣の数が非常に絞られていて、色々なものをこの内閣府というところに持ってきているので、率直に申し上げて、皆さんも感じておられると思うが、動きを迅速にさせることが非常に難しい状況になっている。

しかし、私も、御指摘があったように、鳩山内閣以来、この責任者を務めたり、今はこういう立場であるので、海江田大臣ともう一度、近々相談をして、どういう形で、どういう日程で、戦略的なこの会議をより強力なものにしていくことができるか、やっとな私も国会日程が少し空いたので、早速取り組んでいきたいと思っている。

そういう意味では、資源のない日本がここまで世界に伍してやってこられたのは、人材であり科学・技術だと思っており、そういう姿勢で私もさらに取り組みたいと思っているので、皆さん方のまた大きな知恵も大いに貸して頂きたいということを申し上げて、あいさつとさせて

頂く。

どうか今後ともよろしく願います。

(報道関係者退室)

【海江田科学技術政策担当大臣】

以上で会議を終了する。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表させて頂く。